

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	井坂 直貴	学校名	堺市立日置荘西小学校
実施学年	6年生	教科	国語
单元名	「鳥獣戯画」を読む		

《学びを深めたいポイント》

单元末の言語活動「ひきぶ」（旅行雑誌の名前を真似した物）の作成に向けて筆者である高畑勲の表現の工夫を学ぶことはとても大事なことである。

その上で教科書を読み深めていく+児童個々がもっている表現の仕方をクラス全体に広げていくことが大切な事である。双方を限られた時間内で深めていくために、発表ノートを活用して36人全員の考えや意見を見ることができるようになりたい。

《SKYMENU 活用のポイント》

発表ノートを活用し、1枚の挿絵から感じた事をグループで共同で作る。

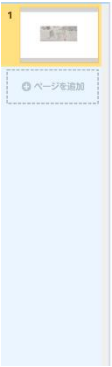
→共同で作ることで入力しながら様々な考えに触れることができ、考えの広がりがでてくる

発表ノートに記入していくことで、より多くの考えが記入でき、相違点などの操作も行いやすい

→考えの整理がしやすい

手を挙げての発表がしにくい児童も全体で考えを共有することができる

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	・ふりかえりから本時の課題を知る C: 魅力の伝え方ってどうすればいい? C: 1度書いてみたけど難しいな…		
展開	・「鳥獣戯画」の絵から感じた事・知っていることを書く 事実…蛙1匹と兎3羽 鳥獣戯画 国宝 巻物 蛙が兎の耳を噛んでいる 兎1羽が笑顔 感想…楽しそうに遊んでいる 絡み合って取れない けんかしている 応援している ・2つに分けた板書について考える 「事実」…全員同じ事 正しいこと 「感想」…自分の考え 人によって違うこと 正しいかわからない ・【『鳥獣戯画』を読む】を読む (P142～143) ・高畑勲の技を見つけ、教科書に線を引く 物語風 最初にインパクト 体言止め 一部見せ 例え 惹きつけ 解説風 事実と感想 ・グループで交流する ・全体で交流する	発表ノートを活用して1枚の挿絵から感じた事・知っていることを共同編集で入力していく  	日常から授業で活用している共同編集を取り入れることで、ノートに書く→グループ交流という時間を取らずに考えを広げることができる
まとめ	・ふりかえりを書く 今日の授業で見つけた技から次時に使いたい工夫を書く C: 例えを使ってよりイメージしやすいように伝えたい C: 最初にインパクトのある言葉を入れて興味をひきたい		

《実践を振り返って》

1枚の絵を印刷してノートの貼り付けて書く→交流するといった一連の流れを発表ノートの共同編集を使うことで、時間を有効に使える。

子どもが学ぶ時間を確保する中で、デジタルの活用は必須であり、共同編集をすることで、考えが上手く出てこない子も学びのヒントを得ることができる。

また考えの広がりや深まりも1枚の発表ノートの中であり、教科書に入っていく前の個々の考えを共有していくことができた。